

---

# 君と二人で

唯人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君と二人で

### 【Nコード】

N2704U

### 【作者名】

唯人

### 【あらすじ】

同棲ってこんな感じの繰り返しかな、っと。

今日が君と出会って丁度一年目の記念日、だった。

一年と少し前までは、僕らはただの見知らぬ他人で、普通に生きていけば出会う筈のない存在だった。

だけど、君に巡り逢えた。きっかけなんて正しく偶然の積み重ねだったけれど、今ではそれも必然であったようにも感じられる。

そう、まるで神の意思がそこに在ったかのように。

君と僕は、出逢うべくして、出逢ったのだ、と。

「夢は何時か覚めてしまうもの」

「夢は現実にするもの」

「夢は夢。でも夢が目標になれば、いつか叶う現実になる」

小さなベッドの上で抱き締めあい互いを求めあいながら、二人はふたりのこれからを囁き合った。

そして指を絡ませ誓った。

「二人で生きて行こう」と。

それから一年。

すれ違いの日々と、果たせぬ約束。無意味な言葉の応酬。

「こんな筈じゃなかった」

「何も解りあえない」

君という事で、君を傷つけるだけの日常の連続。繰り返す憤りと謝罪の言葉。

ねえ。もう一度言って欲しい。

僕と一緒にいる事だけが、私にとって本当の幸せなんだよ、と。

ねえ。教えて欲しい。

君は僕と一緒にいて、本当に君の望んだ幸せがここにあるのかい。

記念日は君と過ごしたかった。同じ部屋に住んでいても、今日だけは特別な日にしたい、と思っていた。

いや、それも違う。

君といえる毎日が、僕にとっていつも特別な日。

そんな当たり前の気持ちを忘れていた。

僕が、君を苦しませていた。

でも、気付かないふりをしていた。

泣かないで欲しい。いつも傍で笑っていて欲しい。

僕は君を笑顔にするために生きているのだから。

信じていて。愛しているよ。

そう呟き寝息をたてる君の瞼に唇を寄せた。

瞼と頬にあたる柔らかな感触に目を覚ました。

傍らには子供のような寝相の彼。

「しょうがないわね」

彼の布団を掛け直し、少しばかりいびきをかいている唇にキスをした。

「何年経っても子供みたいな人なんだから」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2704u/>

---

君と二人で

2011年7月17日02時42分発行